

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 施設番号  | 66-0288          |
| 施設名   | 愛光大和田保育園         |
| 施設所在地 | 東京都八王子市大和田町5-9-4 |
| 法人名   | 社会福祉法人 愛光学舎      |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

海の生き物について知る

<テーマの設定理由>

昨年度実施した移動水族館で、海の生き物に初めて触れる機会があり、海の生き物への興味や関心を持つ姿が見られた。今回の取り組みを通して海で生きる生き物の多様性や美しさに触れることで感じる感動や驚きまたその特性や環境を知り興味関心を深めていく。

## 2. 活動スケジュール

エビを観察しエビについて知る。(7月23日)  
海の生き物を知る(9月~10月)  
常設水槽設置(9月25日)  
給食で食べている(普段食べている)魚を知る。(11月13日)  
魚の体を知る。鮭の解体、鮭を食べる(11月21日)  
海の生き物に触れてみる、移動水族館(12月20日)  
海の生き物の住んでいる環境について知る(1月29日)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

**【環境設定】** 海水魚の常設水槽を設置し、日常的にいつでも海水生物を観ることのできる環境を設定した。園内にて移動水族館を実施し直接海洋生物に触れる機会を作る。興味を持ったものを探求し自分で調べることができるよう、図鑑や絵本を保育室内の本棚に加えた。

**【素材】** 食用エビ、鮭(メス※筋子入り)、図鑑、絵本、クレヨン、画用紙

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「常設水槽」では、実際に海の生き物に触った体験から、長期的に観察を続け、生き物の泳ぎ方や動き方、縄張りや寝床、餌の食べる様子や成長の過程など、「きれい」「かわいい」だけではなく生き物の世界を感じ学びにつなげていった。「移動水族館」ではただ触って遊ぶだけではなく、「だから硬いのか」「ざらざらしているのはなぜ」といったような実勢に触れながら生き物の特徴を観察し興味や好奇心につなげていった。「海の生き物の住んでいる環境について知る」では、プロジェクターでNHKスペシャル「氷の海で大捜索!」の動画を観て深海や実際に海洋生物が住んでいる環境について探究した。また栄養士による鮭の解体やひとり一つエビの解体を体験、エビや魚の体の仕組みについて知り、実際にエビはその場で茹で、鮭はちゃんちゃん焼きにして食べる体験を行った。

## <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

常設水槽にいる魚を見て、この魚はどこから来たんだろう？どんな海に住んでいたんだろうという子どもの気づきに、地球儀や図鑑を用いて暖かい海、冷たい海など環境によって生息している魚が異なることを知っていった。常設水槽のかわいがっていた魚が死んでしまうと子どもたちは悲しい思いになることもあったが、「なんで死んでしまったのだろう」「どうしたら死ななかったのだろう」の問いに対して、「魚も他の生き物と同じようにいろいろな理由で命を終えることがあるということ、病気だったかもしれないし、水が合わなかったかもしれない」こと「大切なのは魚（生き物）を大切に育ててあげて、できるだけ良い環境を作ってあげること」を伝え、生き物の命についてを学ぶ良い機会となった。鮭の解体では、鮭の腹から出てきた生の卵を見て、普段お寿司屋さんで食べている「いくら」は魚の卵であること、こういう風にできていることを知り驚く子どもたちがいた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

見るだけではなく実際に触れることで、その感触から「どうして」「なぜ」がたくさんあふれ出てきていた。また、子どもたちの「なぜ」という質問に対しても大人が直接その場で答えるのではなく、探求が深められるようタブレット端末や図鑑、絵本を環境に配置することで子どもたちの「もっと知りたい」という思いにつながった。魚だけでなく、イソギンチャクやヒトデの生体にもより詳しく探求する子どもたちや自分の知った知識を保護者や職員に伝えたい、教えたいという気持ちが芽生えていたので、今後の展望として発表する機会を設けることも行っていきたい。